

平成30年度 第2回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日 時 平成30年8月20日(月) 午後2時00分～午後3時30分

場 所 京都市上下水道局太秦庁舎 研修室

出席者(五十音順,敬称略)

1 委員

金井 美佐子 京都市地域女性連合会常任委員
川西 照代 市民公募委員
白井 皓大 市民公募委員
西村 文武 京都大学准教授(大学院工学研究科)
水谷 文俊 神戸大学教授(大学院経営学研究科)
村上 祐子 株式会社京都放送常勤監査役
山田 陽子 公認会計士・税理士

神子委員及び兒島委員については、都合により欠席

2 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長,次長,
総務部長,総務部資産・拠点整備担当部長,総務部お客さまサービス推進室長,
経営戦略室長,技術監理室長,水道部長,下水道部長
事務局(経営戦略室)

技術長については、都合により欠席

次 第

1 開 会

- (1)出席者確認
- (2)進行の確認,会議の公開について

2 議 題

- (1)平成30年度京都市水道事業・公共下水道事業経営評価(平成29年度事業)について
- (2)平成30年度 水に関する意識調査について

3 報 告

- (1)琵琶湖疏水の魅力向上・発信について
- (2)危険性のあるブロック塀への緊急対応について

4 今後の予定

5 閉会

内 容

1 開会

(1) 出席者確認

(2) 進行の確認，会議の公開について

事務局： 議事及び資料の確認

水谷委員長： 本日の会議は公開とし，議事録については，後日公表することとする。

議事録は2名の委員の署名が必要ということなので，名簿順で，白井委員と西村委員にお願いしたい。

2 議 題

(1) 平成30年度京都市水道事業・公共下水道事業経営評価（平成29年度事業）について

事務局： 資料の説明（資料4，5及び6）

山田委員： 前回指摘のあった資料5（p50など）のしずくの記載の仕方について，しずく内の年度を削除したことによって，5箇年全体の進捗状況であることが明確になり，よくなったと思う。他も全体的に前回より分かりやすくなったと思う。

西村委員： 経営指標評価について，偏差値を用いて他都市比較をしているが，例えば老朽化対策であれば「他も対策は進んでいないが，その中ではよい」とか「全体的に対策が進んでいるが，他と比較すると順位がよくない」といった絶対的な基準が分かりにくいので，もし可能であれば，そちらも記載できれば分かりやすいのではないか。

京都市： 大都市比較については，p25以降の個別の指標の順位を踏まえて，京都市の特徴を示している。その中で，例えば老朽化対策であれば，p27で法定耐用年数を超えた管路がどの程度あるかを示す指標を掲載するなど，絶対的な指標も用いて京都市の特徴を提示している。他都市を含めた全体的な水道・下水道の状況について，どこまで記載できるかという面はあるが，市民の皆さまに水道・下水道を取り巻く情勢を理解してもらえよう，書き方を検討したい。

村上委員： 事務局からの資料説明において，山間地域の統合による影響という説明が多くあったが，統合による影響は想定どおりであったのか。

京 都 市： 山間地域については、平成28年度末に統合した。平成29年度決算については、山間地域の統合により、前年度の数値との差異が生じている指標が多くあったため、その旨、御説明をさせていただいた。

村 上 委 員： 資料6の概要版冊子について、水道事業は青、公共下水道事業は黄色など色分けしており、他の部分も色を多く使用しているが、カラフルすぎてかえって見にくい印象を受けた。色によっては見にくいものがあるように感じた。

京 都 市： 色使いについては、分かりやすいよう工夫してきたので、ある程度これまでの経過も踏まえつつ、もう少し見やすい色味になるよう工夫したい。

白 井 委 員： 資料6の概要版冊子について、本冊子の概要としてはコンパクトで見やすいと思うが、市民が見るという観点からするともう少し内容を削ってもよいのではないか。内容については、市民が知りたい情報や上下水道局が知ってほしい情報を中心に構成するとシンプルにできるのではないか。

京 都 市： 今回の経営評価冊子については、前中期経営プラン5箇年の総括の年でもあるため、内容が盛りだくさんになってしまっている。文字の大きさなども含め、見やすくなるよう工夫していきたい。

(2)平成30年度 水に関する意識調査について

事 務 局： 資料の説明(資料7-1, 7-2及び7-3)

村 上 委 員： 問9に「(ウ)京料理などに使われる水の魅力」という項目があるが、京料理に水道水が一定程度使用されているという調査結果などがあるのか。

京 都 市： そういったデータがあるわけではなく、あくまで個人の主観としてそういった印象を持っている方がどの程度いるかを聞くための項目である。

白 井 委 員： アンケートの回収率について、40パーセント超と高いが、何か理由があるのか。また集計結果は公開しているのか。

京 都 市： 本調査については、京都市で行っている他の調査と比較しても回収率が高くなっている。疏水物語を回答者に抽選でプレゼントしたり、調査票と一緒にボールペンを封入したりするなど、回収率を上げる工夫をしている。また、結果については、京都市会に報告するとともに、上下水道局のホームページ等で公表する。

白 井 委 員： 問1の「住所」について、山間地域は、市街地と比較して、状況が異なる部

分が多いようなので、山間地域について、区別できる様式にしてはどうか。また、問18や問20などの複数回答可能な設問について、一番知りたい情報を二重丸にするなどの工夫をしてみてもどうか。

京都市： 「住所」について、何か工夫できないか検討をしてみる。また一番知りたい情報を二重丸にするという事に関しては、大きな負担なく、集計ができるようであれば、対応できるようにしたい。

白井委員： アンケート調査自体は有益だと思うが、アンケート以外の形で、利用者の意見を把握できるような取組をしているのか。

京都市： 本アンケートの以外の意見聴取の方法としては、上下水道モニターの募集やふれあいまつり等での、アンケートの実施などを行っている。

白井委員： 利用者について、個人ももちろんいるが、法人が使用しているケースも多いのではないかと。法人の比率はどの程度なのか。また法人向けの意見聴取などの取組は行っているのか。

京都市： 使用水量が前年と比較して大幅な増減のあった大口の法人については、聞き取り調査を行っている。個人と法人の比率については、水量は個人が70%程度、法人が30%程度となっている。料金収入については、個人が60%程度、法人40%程度となっている。

水谷委員長： 白井委員の質問の意図は、お客さまのニーズに応える事が本調査の目的であるとすれば、法人の割合がそれなりにあるのであれば、そちらもターゲットにした調査にすれば、抜け落ちる部分がなくなるのではないかとこのものだと思うので、参考にしてほしい。

山田委員： 試しに事前に設問を解いてみたが10分ほどかかったが、それなりに楽しく、基本的にはスムーズに解き進めることができた。ただし、何点か気になる部分があったので、確認したい。まず、村上委員から御指摘のあった問9の「(ウ)京料理などに使われる水の魅力」について、やはり違和感があった。次に、問1の「性別」について、「男性」、「女性」、「答えたくない」、「()」という選択肢があるが、「()」については、かえって書きにくいのではないかと。さらに問13について、あなたの印象を聞いているにも関わらず、選択肢が満足度になっているので、答えづらいように感じた。

京都市： 各設問の質問の仕方については、今後、専門家の意見なども聞いた上で、必要に応じて修正をしていく。

西村委員： 問1の下から2問目と3問目「水道・下水道について知っていることやあなたの知識」については、具体的でなく、分かりにくい印象を受けた。また、問7については、「水質の安全性」を聞いているにも関わらず、選択肢が「安心」の程度を回答する形になっている。安全と安心は細かく言えば違うと思うがその点はどうか。

京都市： 問1については、どのような知識かについて限定するものではなく、回答者にゆだねているものである。なお、質問の仕方については、再度検討をする。問7については、「安全性」に係る主観を聞いている質問なので、選択肢を「安心」としている。

川西委員： 京都市は外国人観光客も多くいるが、観光客に向けた調査を行う予定はあるのか。観光客に向けて、例えば疏水物語を配りつつ、アンケートを行えば、京都の水道水のアピールにもなるのではないか。

京都市： 本調査は、京都市の住民基本台帳に登録されている人が対象となっているので、観光客は対象とはならないが、観光客に対しての調査は実施していく必要があると考えている。現在、疏水物語の来館者に向けたアンケート調査を実施しており、外国人観光客も記念館に多く来館いただいているが、アンケート調査が日本語のみのため、外国人観光客の意見は基本的に拾っていないのが現状である。この後、報告するが、疏水記念館のリニューアルを平成31年に予定している。言葉の問題もあるが、リニューアルと合わせて、アンケートについて、多言語対応できるよう少し考えてみたい。

山田委員： 本調査に協力した人は、結果を知りたいのではないかと思う。協力した人に回答を送付すれば、広報にもつながるのではないか。

京都市： 郵送はコストがかかるので、難しいかもしれないが、アンケートの実施時に結果の公表の仕方を記載するなど、何か工夫できないか検討する。

西村委員： 郵送はコストが掛かるが、webを使った方法なども今後検討する余地はあるのではないか。

3 報告

(1) 琵琶湖疏水の魅力向上・発信について

事務局： 資料の説明(資料8)

金井委員： 女性会でよく疏水記念館を利用させてもらっている。昨年、利用した際は、音声解説のみだったと思うが、新しくリニューアルされるということで、周囲

にリニューアルの件を周知して、また活用したい。

京 都 市： 現在の疏水記念館は測量図面など、歴史的に価値のある展示があり、専門家からは評価を得ているが、説明などが十分でない面がある。岡崎エリアは観光客も多く、疏水記念館の利用者の中には、通りかかりに立ち寄った人も多い。リニューアル後は、最新の技術を用いながら、観光客や小学生など、専門的な知識のない人にも楽しんでいただけるような施設にできればと思っている。

山 田 委 員： 資料8の1(3)の3点目「...山科疏水沿線の散策の旅行商品開発等の特別企画の実施」とはどういう意味か。

京 都 市： 山科沿線のツアーを、旅行会社と協力して企画していくということを指している。

水谷委員長： 地方創生推進交付金はもうすでにもらったのか。

京 都 市： 昨年度、期間5箇年で内示をもらっている。平成30年度分も内示を踏まえていただいており、期間内継続して、交付金をいただけるのではないかと考えている。

山 田 委 員： 通船事業について、ふるさと納税の特典での乗船率はどの程度なのか。

京 都 市： 乗船率の比率については、手元に数値がないが（議事録作成時記入：ふるさと納税の特典としての乗船者は全体の4%程度）、ふるさと納税は昨年度1,200万円に上った。当年度も継続して募集をしており、すでに目標の200万円を上回り、300万円ほど集まっている。

水谷委員長： 参考までに、こういったケースではクラウドファンディングなども資金集めの手段として有効ではないかと思う。

(2) 危険性のあるブロック塀への緊急対応について

事 務 局： 資料の説明(資料9)

西 村 委 員： 「(A)速やかに、撤去・交換又は必要な補修を行う」箇所については、もうすでに対応が完了しているのか。

京 都 市： 順次速やかに対応を進めており、すでに対応が完了しているものもあれば、現在、設計に着手しているものもある。一部時間を要するものもあるが、大半が今年の9月末までには作業が完了する見通しであり、上半期中に終わらない

ものについても、年度内には完了するよう対応を進めていく。

4 今後の予定

次回は12月ごろに実施予定であり、後日事務局から連絡することとした。

5 閉 会